

令和 6 年度
江戸川区学校応援団
実践報告書

【中学校】

令和 7 年 3 月
江戸川区教育委員会

目 次

P	1
P	3
P	5
P	7
P	9
P	11
P	13
P	15
P	17
P	19
P	21
P	23
P	25
P	27
P	29
P	31
P	33
P	35
P	37
P	39
P	41
P	43
P	45
P	47
P	49
P	51
P	53
P	55
P	57
P	59
P	61
P	63

小松川中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川中学校統括校長 折橋 信二
 コーディネーター 鹿倉 勇

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備・安全指導	不定期（花壇整備）	0人
文化祭展示の部補助員	不定期（運営補助）	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は開校二年目となり、校内の環境整備も落ち着きました。日頃から多くの PTA やボランティアの方々に支えられながら、生徒の安心安全な環境づくりや、学校行事の円滑な運営にご協力いただきました。昨年度、校舎周りの花壇には多くの花を植え、プランターに入れた花を開校式に飾りました。今年度は本校の部活動の一つである SDG s 部の生徒によって、花壇に置くのチューリップの球根を植えました。このように、学校・保護者・地域がひとつとなって学校運営をしていると実感することができていることが一番の成果です。

<課 題>

コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いてきたとはいえ、今後も予想される感染拡大による持続可能な実施が課題である。また、地域にお住いの方々を新しい学校として、どのような方にご協力をいただくか、統合前に協力いただいていた方々の世代交代など、人員を今後どのように確保していくかも大きな課題である。

5 コーディネーターより

小松川中学校の学校評議員兼コーディネーターを務めさせていただいております。地元の人間として、学校・家庭・地域をつないできました。昨年度は多くの方のご協力により、小松川中学校を無事に開校することができました。小松川平井地区の未来を担う生徒の皆さんが、活き活きと学校生活を送っている姿を見ると、大変うれしく思います。

学校応援団コーディネーターとして「やれることから」をスローガンに活動していきたいと考えています。生徒・PTA・各町会・地域の事業所などと協力し、小松川平井地区にある学校として、小松川中学校を影ながらサポートできたらと考えています。

6 学校長より

昨年度小松川中学校の開校を、無事にスタートさせることができました。多くの方々のご支援ご鞭撻をいただきながら、生徒たちは活き活きと学校生活を送ることができています。今年度の卒業生は統合最後の生徒たちで、学校文化や制服など多くの違いを受け入れながら生活してきた生徒たちです。我々教職員も考え深い思いで今年度の卒業式を迎えます。今年度も引き続き、時代の流れや社会の変化に対応し、生徒・保護者・地域の方々の願いを受け止め、生徒第一主義の学区づくりを行います。この伝統部会小松川・平井地区で健全に育つ子どもたちを、地域の方々と一体となって熱く、温かく育てていきたいと考えております。

本校では、地域に根差す学校としてボランティア活動を推進しております。小松川平井地区大運動会、社会を明るくする運動、小松川平井地区マラソン大会など、多くの生徒たちがボランティアに積極的に参加しています。

ボランティアを通して、本校の生徒がさらに小松川・平井の地域や本校を愛し、地域に貢献することのできる大人へと成長することを願ってやみません。

小松川第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二中学校長 星谷 雅俊
コーディネーター 村上 則俊

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60 人
	学生ボランティア	30 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事協力	不定期	60人
環境整備	不定期	30人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

毎年、本校の教育活動全般を学校応援団活動によりバックアップしていただいています。その中でも本校の二大行事である運動会、文化祭等の大きな行事の運営に御尽力いただいています。今年度は運動会、文化祭合唱コンクールの部を保護者の閲覧人数制限なしに閲覧いただき、応援団の方々にもご協力いただくことができました。文化祭合唱コンクールの部では、ティアラこうとう大ホールで実施をしたため、地域の方のご協力なしには実現できませんでした。また、今年度も「花いっぱい運動」に当選し、学校応援団のご協力を得て、チューリップなど多くの球根を植樹することができました。教育活動へのご協力、誠にありがとうございます。

<課 題>

新型コロナウイルス感染症の影響下から、少しずつ例年の活動に近づけようと活動しました。そのような中で、学校応援団の活動の多くをまだまだ学校の教員やPTA本部役員の方々をお願いしており、多大なる御負担をおかけしています。「花いっぱい運動」へのご協力も含め、より多くの方々に学校応援団活動を知っていただくため、さらなる広報活動を行う必要があると考えます。

5 コーディネーターより

今年度は、昨年度以上に 学校行事が新型コロナウイルス感染症拡大以前の状態に戻りつつあるので、学校行事の運営や校内外の環境美化など、生徒の安心安全のための活動を充実させることができました。そして、学校運営に貢献することができました。今後もさらに多くの方々に御協力いただくため、機会を見て宣伝や勧誘を行い、いろいろな分野で学校の教育活動を応援していきたいと考えております。

6 学校長より

本校の教育目標である、「生徒、保護者、地域、学校職員、卒業生が誇りに思う学校」の実現のため、本校の教育活動に御協力、御尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

今年度も学校応援団の皆様の御協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。今後も引き続き御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

松江第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第一中学校 校長 瀬戸 完一
コーディネーター 中里 義雄

2 ボランティア登録数(令和7年1月末現在)

ボランティア数	一般ボランティア	80人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室 整理・管理支援	毎週水曜日を基本とする	20人
行事支援(蓮の植え)	1学期(不定期、今年度は4/29)	40人
行事支援(蓮の収穫祭)	2学期(不定期、今年度は11/23)	60人
蓮田の管理支援	毎週(不定期)	1人

【保護者・PTA・家庭】

- ・図書室整備・放課後開室
- ・運動会・合唱コン受付
- ・学校公開受付
- ・地域パトロール

蓮の植え 蓮の収穫祭

【地域町会の方々】

【松江会(同窓会)】

【学校評議員】

- ・五校協議会
- ・夏季地域パトロール
- ・地域行事(お祭り、運動会等)

【学校】

- ・職場体験
- ・学校行事
- ・小中連携



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・今年も学校応援団（松江会（同窓会）、PTA、地域）の方々と協力して、蓮池の維持管理と種植え、収穫祭の行事を無事実施することができた。蓮田でも作業は重労働であり、経年による泥の入れ替えも実施したが、生徒会本部役員や交流委員会、有志生徒の協力のもと学校応援団の方々も多数参加して、盛況のうち終えることができた。蓮田が地域の方々と現役生徒・OBOGと世代を超えてつなぐ架け橋となっていていることを実感できた。
- ・保護者の方による学校図書館ボランティア活動が組織され12年目となった。学校の行事や時程の連絡を担当の方から連絡をとりながら、なるべく多くの日数で開館することができた。

<課 題>

- ・各種活動の広報・周知活動を充実させ、より多くの方々にご協力いただくこと。
- ・学校応援団の安定した人員の確保をすること。

5 コーディネーターより

第32代PTA会長の中里義雄です。コーディネーター13年目になります。今年度の「蓮の種植え」「収穫祭」は、ほぼコロナ禍以前の形で実施することができました。学校評議員、PTA、地域の方、松江会（同窓会）のご支援、さらにボランティアさんの協力のもとで、4月29日（土）昭和の日に蓮植え、11月23日（木）勤労感謝の日に蓮の収穫祭を実施しました。今年度は約50kgの蓮を収穫することができました。来年度も引き続き実施していきたいと思います。また、保護者のご協力による学校図書館ボランティア活動も定着し、毎週水曜日に図書室が開室されています。これからも学校評議員、PTA、地域の方、松江会（同窓会）の方々と協力して、松江一中のためにできることに積極的に取り組んでいきたいと思っています。

6 学校長より

本校では、学校応援団発足以前より学校評議員、PTA、地域の方、松江会（同窓会）をはじめ多くの方から様々なお支援をいただけてきました。その中で特に地域の方、PTA、学校をつなぐ大切な要となっているのは蓮田関連の行事です。生徒たちには江戸川区の特産品であった蓮根を身近に感じてもらいたいとの思いから、松江会（同窓会）のたゆまぬご協力をいただき脈々と引き継がれてきました。この活動は今後も継続していきます。このような、子どもたちが地域に見守られ育っていく姿、地域・保護者・学校が共に子どもたちを育てていく姿は日本型教育の理想であると考えます。そしてこの松江地区には、その土壌が育まれております。今後とも本校の教育活動にご理解とご協力のほどをよろしくお願いします。

松江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第二中学校長 鈴木 啓之
 コーディネーター 関 和典

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	50人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎月1回 月曜日 8:00～	各8人
花壇づくり	6月7日(金) 16:30～17:00	20人
花壇づくり	11月23日(土) 10:00～12:00	20人
道路クリーンアッププロジェクト(落ち葉はき)	12月上旬 不定期	30人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年の学校応援団の活動は、毎月1回のあいさつ運動と、春・秋の花壇づくり、そして道路クリーンアッププロジェクト（落ち葉掃き）を実施しました。

あいさつ運動は、PTAの校外委員の保護者の皆様と連携して同じ日に実施しました。地域の方々と保護者の方々の温かい声掛けにより、生徒たちは笑顔で登校でき、挨拶を交わしていました。朝の登校時に足を運んでいただくことで、登校に活気が出ると同時に、地域のつながりを感じ、とても効果のある取り組みとなっていました。

花壇づくりは、学校応援団の方々と生徒達がそれぞれ4グループに分かれ、パンジーやシクラメン、チューリップ、スノーポールなど、多くの花を花壇に植えました。学校応援団の方と生徒が相談しながら花の配置を考えたり、土を耕したりして、花壇づくりで分からないことを教わりながら活動していました。

道路クリーンアッププロジェクト（落ち葉掃き）は生徒会とコラボして行い、生徒と応援団の皆様により、イチョウなどの落ち葉を掃いて道路をきれいに清掃することができました。

地域の方々と交流を深めながら一緒にできる活動があることはとても良い機会で、生徒にとっても地域の方々にとってもココロが豊かになる活動になりました。今後もこのような機会を増やし、継続して続けていきたいと思っています。

<課 題>

今年度の学校応援団の課題として挙げられることは次の通りです。

- ① 学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子供たちをはぐぐむため、より多くのボランティアを募り活動することが課題である。

5 コーディネーターより

松江第二中学校応援団コーディネーターの関です。今年は、朝のあいさつ運動で大きな声を出して挨拶ができ、生徒たちの元気な声を聴くことができました。

6月と11月の花壇づくりは、季節に応じたチューリップやパンジーなど、球根や苗を準備していただきました。副校長先生や顧問の先生、外部指導員をはじめ、生徒会役員、ボランティア部員の参加・協力により、約2時間わきあいあいと花植えができました。学校応援団員は、今後の開花を楽しみにしています。

今年度も3年生の面接練習、茶道教室が中止となりましたが、このような応援団の活動に関わった子供たちの成長していく姿を見ることがとても嬉しく思います。今後とも良い学校づくりに携わっていききたいと思います。

6 学校長より

松江第二中学校学校応援団は、学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供を育てる体制を整備することを目的として、平成23年度に結成されました。コーディネーターの関さんを中心に、あいさつ運動や花壇づくりを実施しました。学校応援団の方々と生徒と一緒に活動することは、健全育成を促す上でとても貴重な体験となります。今後も、学校応援団の方々のご協力をいただきながら、より多くの活動を行っていききたいと思います。

松江第三学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第三中学校長 小澤 託
コーディネーター 上野 康雄

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	27人
	学生ボランティア	18人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校巡回見守り	不定期	10人
行事支援（体育祭受付）	不定期	17人
行事支援（合唱コン受付）	不定期	18人

<学校応援団感謝状贈呈>

平成30年度、11月1日の東京都教育の日に、平成30年度学校活動支援団体に対する感謝状贈呈式において、地域における児童・生徒の育成活動部門で、本校の学校応援団団長、上野康雄様が感謝状を頂きました。これからも学校応援団、OB会の方々の活動支援を賜りますようよろしくお願い致します。

<地域防災>

毎年消防署の方を招き、保護者や地域の方々に参加していただく訓練です。今年度は地震体験車・通報、初期初夏体験をおこないました。災害時の身を守る方法や対応方法、防災について考える良い機会となっています。また、令和4年度に東四町会から寄贈していただいた防災用ヘルメットは今後も有効に活用していきます。

来年度も、学校応援団を含めた地域の方々にたくさん参加し、体験して頂けたらと思います。





<花壇及び菜園>

27年度より花壇を作り菜園として手入れをし、色々な作物を育てています。また、六年前から「耕運機」を稼働させ、耕す時間が大幅に減少できています。花壇隣には防災井戸も完成し、今後の水やりに活用していきます。

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○花壇と菜園は、地域の方や園芸関係の方から手ほどきを受けているため、徐々に成果を出していくことが課題です。野菜の収穫や花壇の整備に取り組みたいと思います。来年度には花いっぱい为学校、数年後には松江三産の収穫物をお見せすることが出来るようにしていきます。ここ数年は、花壇の周囲を整備するため、青竹を購入し竹垣を作っています。

○今年度は、中央地域祭りをはじめ、区民まつり・地域小学校夏祭り・地域大運動会等において多くの本校生徒が進んでボランティア活動に参加しました。

<課 題>

○花壇学校応援団、OB会の方々は、お仕事をもちつつ学校への協力ということでお忙しい時間のやりくりをして頂く中、どう時間を捻出し、効果的な取組みにしていけるかを考えていきたいと思ひます。

5 コーディネーターより

これまで学校応援団として、祭礼パトロール・三産フェスティバルへの協力・菜園の定期的な管理などをしてきました。平成30年度に東京都教育委員会より学校活動支援団体に対する感謝状を頂くことができました。校長先生からは「何かあったときに助けてくれる学校応援団でいてください。」という言葉をいただいておりますので、これからも、松江三産の生徒たちを見守り、学校からの要請があればいつでも協力できる体制を整えています。

今後も活動内容を工夫しながら「松江三産の生徒たちに見てもらえ、参加してもらえ」活動を目指していきたいと思ひます。

6 学校長より

今年度も体育祭や合唱コンクール・修学旅行や林間学校・1年生のエコプロ・2年生の鎌倉校外学習を実施してきました。さらに地域のお祭りや大運動会、区民まつり等のボランティア活動に生徒が参加することができました。学校応援団の方には、本校の教育活動を様々な側面からご支援いただきながら、生徒たちを地域で見守っていただきました。

常に思うことですが、ほとんどの応援団の皆様がお仕事を持っていられさうたり、たいへんお忙しい中にもかかわらず、いつも松江三産のために、と気にかけていただいております、本当に頭の下がる思ひです。これからも生徒たちのために、本校教育活動にご協力いただきながら「何かあったときに助けてもらえる学校応援団」でいていただけるよう、心よりお願い申し上げます。

松江第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第四中学校長 鶴澤 伸一
 コーディネーター 富永 秀樹

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	12人
	学生ボランティア	0人

※生徒ボランティア 503名

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
園芸整備	不定期	6人
校内池整備	不定期	6人
四中ステージ	10月	10人
清掃活動	12月	全校生徒



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度の主な活動は、環境整備として正門付近の花壇の花植えや学校敷地内および周辺の清掃活動を行いました。特に清掃活動は、全校生徒が学校周辺の美化に集中的に取り組んでおり、生徒たちの自尊感情を育むとともに、地域との間接的な交流機会となっております。

また、今年度も池のメダカの飼育活動をボランティア生徒の活動として行いました。エンカレッジ・ルームを利用する生徒のなかには、この飼育活動を自分の責務と感じている生徒もあり、メダカの成長に喜びを感じ、登校意欲の喚起につながっています。

10月には、PTAと学校応援団の協力により「四中ステージ」（ボランティア生徒を中心とする発表会）を開催しました。生徒だけでなく、保護者や地域の皆様、学校関係者も参加する楽しい時間を作り出すことができました。

<課 題>

地域の祭りや行事にボランティア参加する積極的な生徒が多数いるなか、そうした生徒たちと学校応援団、地域の皆様が触れ合いながら取り組める活動について検討していくことが今後の課題です。

5 コーディネーターより

今年度の活動を振り返り、保護者・PTA・地域や町会の皆さまにお礼を申し上げます。大きな事故もなく、安全に生徒たちが活動できたのも皆さまのお力のおかげだと思っております。

今後もこの安全な環境のなかで四中生が実力を思う存分発揮できる活動機会を提供できるよう、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

6 学校長より

本校の位置する地域は、元々地域が人・子供を育てようという営みが盛んです。生徒達がボランティア参加できる活動を多数主催し、地域の方々が地域に生きる生徒を育てていただいています。そのような環境の中で、今年度も学校応援団の皆様のご協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。生徒は地域の中で育ち、学校は地域に支えられています。本校の教育活動にご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

松江第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第五中学校長 荒巻 淳
 コーディネーター 牧島 孝行

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	34人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
夢を育む講演会	○年1回 令和7年3月10日(月) 講師「お笑いタレント、マシンガンズ 滝沢秀一様の`ゴミ学`」	30人(予定)
学校図書館の充実	○月1回	4名
地域貢献活動	○不定期	生徒100名 応援団 3名

4 今年度の成果と課題

<成 果>

夢を育む講演会では、お笑いタレント、マシンガンズの滝沢秀一様を講師に迎えました。今回も学校応援団たちばなの皆様方が生徒たちの生き方に対する考えを学び将来に生かせる機会をつくる目的で企画をしてくださいました。また、保護者の皆様にも限られたスペースではありましたが、参観していただきました。

学校図書館の充実では、ボランティアの地域の方に手伝っていただき、新規購入本の整備がほぼ終わりました。毎年学校として本を購入していますが、その整備はボランティアの皆さんが一手に担ってくれています。今後は委員会活動において本の貸し出しや返却をスムーズに行い、本の紛失を防いでいきます。

地域貢献活動では、生徒からボランティアを募り、様々な活動を実施することができました。特に校内清掃ボランティアは、ウェルカムガーデンを冬休み終了前に行い、毎回100名近くの生徒たちが参加し、普段はなかなかできない箇所の清掃にじっくり取り組んでいます。

<課 題>

夢を育む講演会は毎回好評です。この講演会は生徒たちに計り知れない効果があると確信しています。今後も継続していきたいと考えています。

地域貢献活動では、地域の祭りやボランティア等に積極的に参加してくれる生徒が年々増えています。今後、更に多くの生徒が地域に貢献できるようになってほしいです。

5 コーディネーターより

学校応援団の活動として特に力を入れたのは「地域貢献活動」です。地域の小学校、中学校そして高等学校が連携を図りながら地域の人々と関わっていくことはとても意義のあることだと考えます。

今年度も中央・一之江ふるさとまつりが実施され、生徒たちは来場者として楽しむだけでなく、運営ボランティアとしても大いに活躍してくれました。

地域で暮らす人たちを結びつけて地域を活性化させるために、この活動をこれからも続けられるような様々な機会を設けていきたいと思います。

私は松江第五中学校の卒業生でもあり、母校の後輩でもある地域の子供たちの活躍を大いに期待しています。松江第五中学校を拠点として、地域のきずなが強く太いものになることを願っています。

6 学校長より

本校の特色ある教育の1つに「たちばなマインドの推進」があります。“たちばなマインド”というキーワードを合言葉にして、自らのよさを集団や社会の中で生かそうとする自主的な実践活動の推進です。各町会では「たちばなマインド」が浸透し、多くの生徒が地域の中で活躍できるようになりました。これからも地域の皆様方の期待に応えるために、学校応援団のお力添えをいただきながら生徒一人一人の成長と松江五中のさらなる発展を図ってまいります。これからも本校への応援をよろしくお願いいたします。

松江第六中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第六中学校長 小野満 賢
 コーディネーター 平田 光男

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	10人
花植え運動	不定期	5人
朝のあいさつ運動	毎朝	1人
六中まつり	不定期	20人



六中まつりの様子



朝のあいさつ運動

4 今年度の成果と課題

<成 果>

主な活動は、環境整備として校門近くの花壇の花植え、シンボルの池の掃除、そして朝のあいさつ運動でした。経年劣化による池の修復に際しては、地域から区へ依頼する流れで令和5年6月に実施が完了し、生物が戻ってくる環境となりました。今年度、10月の六中まつりは地域の小学生を招待し、昨年度に引き続き敷地内での飲食可能な形式で開催することができ、12月の五町会防災訓練・避難訓練も町会の方々が参加する形式で実施することができました。六中まつりでは、どのような形式であれば安全に開催が可能かを重ねて検討し、当日は生徒・児童が楽しく過ごせる時間を作り出すことができました。このことは、本校生徒が今まで地域の方々と一緒にボランティア活動に参加してきたことが生かされた結果だと思えます。

<課 題>

今年度は昨年度に引き続き応援団の方と生徒と一緒に活動することがなかったので、来年度はこれまでの取り組みを引き継いでいくためにも、六中まつりや五町会合同防災訓練・避難訓練の実施に向けて生徒が学校応援団や地域の方と触れ合いながら取り組める内容について検討することが必要です。また、生徒会を中心としたボランティア活動などに学校応援団の方々に関わっていただけるものがないか考えることも、課題です。

5 コーディネーターより

学校応援団のコーディネーターとして今年も、思うような活動ができませんでした。新型コロナウイルス感染防止のために長年積み重ねてきた行事ができなくなり、私達だけでなく子供たちが辛い思いをしていることに大変歯がゆい思いをいたしておりました。しかし、そんな中でも環境活動として花壇の花植えや池の掃除ができてよかったと思います。また、六中まつりを昨年度に引き続き飲食可能な形式で開催できたことが応援団として今年の大きな成果でした。

子供たちは将来地域を支える大切な人材です。今後も学校応援団の活動をととして、松江第六中学校を支援してまいりたいと思っております。

6 学校長より

将来の地域の担い手の育成ということで、例年、学校応援団の皆様には松江六中の教育環境の整備を行っていただくとともに、地域の行事にも本校ボランティア生徒を参加させていただくなど、学校と地域の橋渡しを積極的に行っていただいております。学校の環境整備と朝のあいさつ運動を中心に活動を行っていただくとともに、今年度は5年ぶりに五町会合同防災訓練・避難訓練へ生徒ボランティアが参加して一緒に活動することができました。また、学校行事へのご招待もなかなかできず、学校の様子を直接ご参観いただけない状況にもかかわらず、これまでと変わらぬご理解・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。今後も引き続き本校へのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

二之江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

二之江中学校長 茅原 直樹
 コーディネーター 桐井 義則

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
二之江中を愛し育てる会	標語の顕彰（各学期1回） タグラグビー教室（各学期1回） 防犯カメラの管理・運用	18人
花のある学校づくり	栽培活動（不定期）	2人



タグラグビー教室（クボタスピアーズ関係者を招く）



標語の最優秀作品の懸垂幕

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 二之江中を愛し育てる会が行う標語活動は、各学期でテーマが設定され、生徒一人一人に考えさせるものである。この取組は、ものや人を大切にしようという心を育み、生徒の落ち着いた行動につながっている。
- 防犯カメラが、区が設置したもの以外に3か所（各4台）に設置されていることで、子供たちの通学路がより安全な環境になっている。
- 敷地が広いと、花壇のスペースも多い。それぞれの花壇で季節ごとに花が咲き、生徒や保護者の目を楽しませている。

<課 題>

- 現在、コミュニティ・スクール化に向けて、この二之江中を愛し育てる会を含め、学校・家庭・地域をどうつなげ、それぞれの強みを生かしていけるかについて、環境整備している。
これまで培ったノウハウも生かし、より学校を支援して頂けるようにしていきたい。

5 コーディネーターより

新型コロナウイルス感染症対策として、自粛期間もありましたが、以前のように皆様が二之江中学校を応援してくださり感謝いたします。

さて、私は、学校・家庭・地域社会の三者の役割分担と密接な連携のもと、「子どもたちのために大人は何ができるのか？」これが教育の原点と考えております。このことを念頭に置き、皆様が諸活動にかかわりやすい環境づくりをし、三者の橋渡しができるように努めていきたいと思います。今後とも、二之江中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団活動以前より、二之江中には「二之江中を愛し育てる会」、PTAのOB会である「三江会」という絶大な応援団が存在しています。現在もなお組織がしっかりと機能し、学校の教育活動に様々な形でご支援・ご協力・ご理解を得ているところです。また学校応援団としての中心的な役割も担っていただいています。組織を維持させ成長させていただいていることは本当に心強く感じています。学校としてもその支えに報いるためにも全教職員が一丸となってよりよい学校づくりに邁進していきたいと考えています。今後も各団体の特徴を生かした活動を続けていただき、コーディネーターを中心に学校・家庭・地域の更なる結びつきが強くなるよう願っています。

本校の学校応援団の活動は、多くの皆様のご理解・ご協力により順調に活動しています。今後とも、子どもたちのかけがえのない中学校生活3年間がより充実したものとなるよう、学校応援団の皆様の皆様のご支援をよろしくお願いしたいと思います。

葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西中学校長 内野 雅晶
 コーディネーター 土田 知美

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災ボランティア	9月2日	15名ほど
図書館整理ボランティア	週1回（毎週水曜日）	10名ほど
図書館清掃ボランティア	7月23日、12月7日 3月未定	各回 10名ほど



防災ボランティア



図書館清掃ボランティア

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 学校応援団の活動は、例年通り「図書館整理ボランティア」「図書館清掃ボランティア」「防災ボランティア」を実施することができました。特に「防災ボランティア」は昨年度の課題を踏まえ、さらに参加者が意欲的に参加できる内容に発展させることができました。「図書館清掃ボランティア」は学校応援団のメンバーも運営の仕方に慣れ、スムーズに実施することができました。学校図書館が使いやすく、大変きれいに整理されているのは、学校応援団の賜物であります。次年度以降も、同様に実施できたらと考えています。

<課 題>

- 「図書館清掃ボランティア」は、企画・実施することに慣れ、昨年度以上に活動が円滑になっています。しかし、ボランティア参加者の減少のため、来年度以降も同様に実施していくためには、ボランティアに協力していただける新しいメンバーを増やしていくことが大きな課題です。

5 コーディネーターより

- 年間を通して、大きな問題もなく、教職員や生徒と協力し活動できたことは有意義でした。特に「防災ボランティア」では、かまどベンチを使って炊き出しを行い、皆でカレーライスを食べたことで団結が高まり、素晴らしい経験になりました。この活動は、地域の皆様にも貢献できたと考えています。
- 学校応援団の活動のさらなる推進のため、より多くの人に参加し関われるよう、活動を広げていく視点で、発信方法をさらに工夫していきたいと思っております

6 学校長より

- 学校応援団コーディネーターの土田様をはじめ、「防災ボランティア」「図書ボランティア」の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。「防災ボランティア」の方々のおかげで、学校の「防災教育」を昨年よりさらに充実したものにすることができました。また、「図書ボランティア」の皆様のおかげで、生徒が気持ちよく図書館を利用することができております。みなさまのお力添えで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第二中学 校長 植木 清
コーディネーター 福島 剛

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	7人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
校内花いっぱい運動打合せ	学期1回	7
校内花いっぱい運動	不定期	3



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本年度より校舎改築に伴って、仮設校舎での生活が始まった。従来の本校は緑豊かな環境であったが、その多くが工事の関係で失われてしまった。そこで、学校応援団の方々との話し合いを通じ、「現在の学校に必要なもの」として「植栽」という結論に至った。昨年度までは、「身近な地域を知る講演」や「校内美化装飾活動」を実施していたが、本年度は大きく内容を変更することとなった。

学校応援団の予算の執行において、身近な商店を活用できることはとても利点が大きくある。本年度は、地元商店の特売の情報を基にチューリップをはじめ、多くの球根を準備することができた。その数は、なんと800球にもなった。

準備を含め、緑豊かな学校を思い描きながら、生徒とともに豊かな時間を育むことが

できたと考える。また、植栽当日には実に多くの生徒が参加することができた。それは、800球という膨大な数の球根も、1時間弱で作業が終わってしまうほどであった。

施設における制限はあっても、そこで生活する生徒と教員、そして地域の方との連携により、環境は変えることは可能である。また、本年度の植栽のように、花々が咲き誇るまで時間は有しても、その未来に想いを馳せることも、豊かな時間や経験につながると考え、成果として捉えている。

＜課 題＞

生徒の活動時間に合わせると、実際に協力していただける地域の方が制限されてしまうのが例年の課題であった。そこで、本年度は打合せの時間を十分に確保することで、当日の参加ができなくとも、学校のために尽力していただくことができるようになったと考える。ただ、本年度は新たな転換期であったため、考察の時間も確保できたが、次年度も本年度の活動を継続するのであれば、そのような時間の確保をどのようにすればよいのか、課題である。

5 コーディネーターより

本活動は、多くの方々の協力のもと、生徒に友好的な結果をもたらすものです。

そこには、生徒や先生方ともに学校評議員や同窓会、町会や地域の皆様といった本校とかわりのある方々の学校に対する深い思いがあるからです。今後も多くの方々にご参加いただく形で活動していきたいと考えております。

また、本校における学校応援団の活動は、学校現場の状況に応じて内容を変化させておりますが、年度初めの計画をもとに、よりよい活動を目指していきたいと考えます。

従来から変わらずにご支援いただいている皆様には深く感謝申し上げますとともに、来年度も引き続き葛西二中へのご協力をいただけますようお願い申し上げます次第です。

6 学校長より

学校応援団の活動を通して、PTAを中心とする保護者の皆様や、町会や地域の皆様、同窓会、PTA・OB会・卒業生といった多くの皆様に応援団協力者として教育活動へのご支援・ご協力をいただき、成果を上げてまいりました。

本年度に至るまで新型コロナウイルスや校舎改築に伴い、永続的な取り組みではなく、毎年度様々な内容を工夫して参りました。本年度より学校生活の基盤となる仮設校舎は、緑が少なく、年度初めより「緑豊かな施設」にしたいと望んでおりました。この度、その想いを形にいただいたことに感謝申し上げます。また、当日は私も作業に参加させていただき、生徒たちの豊かな表情を見ることができました。これも皆様方のおかげであると心より感謝申し上げます。

今後も葛西第二中学校にご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

葛西第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第三中学校長 金澤 栄治
 コーディネーター 安次富 宏行

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備活動	不定期	5人
行事・周年行事支援	不定期	20人
部活動支援	不定期	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は近年、感染症防止によって開催できなかった地域のボランティア活動が実施されるようになり、毎学期行っている校外周辺一帯のボランティア清掃に加え、地域の防犯活動や防災訓練、祭礼、運動会等の体育的・文化的行事に参加するなど、充実した取組を行うことができました。奉仕活動に例年積極的に参加することを目標にし、奉仕の精神が育まれています。今後も町会の行事や近隣の施設の奉仕活動などへの参加を、生徒会活動と連動させて呼びかけていきます。

生徒が校舎内外で安全で安心した学校生活が送れるよう、学校では環境整備や学校行事・部活動の活性化に全力で取り組んでいますが、学校応援団の方々にも例年ご協力をいただいております。

今年度は、応援団の活動もボランティア活動の主旨を強くし、学校行事における運営や行事での地域パトロール、施設整備にご協力をいただいたことで、生徒たちも運動会や合唱祭、各部活動の大会、それぞれにおいて優秀な成績を収め、成功に導くことができました。また、学校評議員会やPTA 活動と連携して準備・運営に携わっていただき、様々な行事を盛大に実施できました。

生徒には地域の一員として、いざというときに頼りになる存在として活躍できるよう、学校でも指導していますが、地域の皆様にも生徒の健全育成にご協力をお願いしています。

<課 題>

コロナ禍以前の地域の奉仕活動が徐々に実施されていますが、地域の防災訓練など参加者が減少している活動も多く存在します。方法や環境が変化していることもあり、活動方法や方針、その目的等を変革し、学校の教育活動と連動させて、参加できるボランティア活動を推奨したり、生徒に意義を教えたりして、自主的に参加していくよう働きかけ、支援していきます。

昨年度は開校 50 周年により、様々な事業を通して応援団が携わるより良い方法を模索しました。それを継続して絶やすことのないよう、学校行事・部活動支援、環境整備活動等、学校応援団の活動をより多くの人に周知することで、活動の幅を広げていくことが課題です。

5 コーディネーターより

今年度も様々な活動でご協力いただきました。学校応援団としての活動も徐々に協力できる機会や場が増えていくよう、活動内容や方法を工夫・精査し、学校と保護者・地域が一体となって子どもたちを育てていくというスタンスを続けていき、学校の教育活動が充実することで、地域も共に活性化していけることを目標にしています。

現代社会の中で学校活動においてサポートできることは何かを考え、可能な限り協力できる体制を整え、応援団としての務めを果たしていきます。これからも学校応援団の活動が地域に広がり、参加される方がさらに増え、活発な活動になっていくよう、全力で役割を遂行していきます。

6 学校長より

今年度は、昨年度の周年記念事業に続いて、学校応援団の方々に多大なるお力添えをいただき、様々な教育活動を、無事かつ盛大に終えることができました。本当にありがとうございました。

開校 50 周年を機に、時代に反映した教育活動を目指し、模索しながらの学校経営となりましたが、昨年度までの教訓を生かし、充実した教育活動、学校行事に取り組みました。生徒たちは進化・発展そして新たな伝統を創り上げようと、昨年度以上のもの、仲間との思い出に残るものとして主体的に活動し、本校の伝統を引き継ぐ活動が実施できました。それと同時に自己肯定感も高められました。今後も、地域や保護者の方々への学校公開や、生徒との交流する機会をさらに増やしていき、生徒たちの生き生きと活躍する様子をご覧いただけるよう、引き続き学校応援団へのご理解・ご協力をお願いいたします。

南葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西中学校長 日野 志磨子
 コーディネーター 八重樫 利雄

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	32人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇・農園整備	不定期	20人
ふれあい面接	1月9日、1月10日	12人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校は、地域の教育力を生かした教育活動を展開することを目指し、多くの保護者や地域住民の方に支えられながら学校運営を行っている。今年度も昨年度に引き続き、花壇や農園の整備をお願いした。花壇に植えられた花々が生徒の登下校を見守ってくれるとともに、学校に彩を添え、生徒や教職員の心の安らぎとなっている。

また、昨年度に引き続き、今年度も「地域ふれあい面接」を実施することができた。3年生を対象として2日間行い、受験の面接試験に向けて多くのアドバイスを受け、交流を深めながら自分の進路について向き合う機会となった。地域の方々とふれあうことを通して、生徒は礼儀やコミュニケーション能力を高めることができ、充実した会となった。

<課 題>

学校応援団の方々は来校して活動をする機会がある一方、一般の地域の方々にご来校いただく機会はあまりないと感じた。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となり、以前の交流を取り戻しつつあるが、学校にご協力いただく新しい形のボランティア活動を模索していかなければならない。

また、今後も活動を継続していくためには、町会・自治体の方々との連携を強め、新しく協力していただける方を探す、校務分掌に担当者を置くなど学校全体で継続的、発展的に進めていくことが重要である。

5 コーディネーターより

南葛西中学校の学校応援団の活動は、多くの方々にご協力をいただき定着している。「地域ふれあい面接」や「花壇や農園の作業」に加え、かつては「図書館整備ボランティア」も行っており、地域と学校が一体となって生徒を見守ることができていた。

今年度も昨年度と同様に、花壇の整備とふれあい面接を実施することができたことはうれしいことである。しかし、学校応援団として登録してくださっている方が高齢化が原因で減少傾向にあり、今後の活動が心配される。

今後も学校応援団として新しい形のボランティア活動も模索しながら、「地域とともに歩む南中」を実感することができる温かい関係を育めるよう、地域の子どもの成長を見守り続けていきたい。

6 学校長より

南葛西中学校は、学校応援団の方々をはじめ、これまで多くの地域の方々に支えられながら生徒の健全育成に取り組んで参りました。今年度は「地域ふれあい面接」そして「花壇や農園の整備」に取り組んでいただき感謝しております。ご多用の中、時間を割いて本校のために活動してくださるボランティアの皆様の取組と関わりによって、生徒一人一人に地域の一員として自覚し、伝統を継承していく担い手としての自負が芽生えてきています。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

南葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第二中学校長 古澤 浩一
 コーディネーター 高島 由紀子

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	22 人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
陶芸	11月～2月 授業4日間 6時間 準備、後作業 32日間 89時間	10名
図書	不定期（6回）	5名
家庭科（被服）	不定期（14回）	3名
社会人講話	不定期（1回）R6年12月13日実施	4名



4 今年度の成果と課題

<成 果>

・陶芸は、10名で各クラス3回の授業の進行とサポート・授業外での準備・焼き釜入れ窯出し等で、のべ32日89時間程度のご協力をいただいた。美術科教員1人では到底できない内容が可能となり、生徒も興味をもって楽しんでおり、深い学びと充実した学習となった。

・社会人講話は、2学年進路学習、チャレンジ・ザ・ドリーム（職場体験）の一環として実施。生徒は興味津々で講話に聞き入っていた。知らない世界や仕事の世界を垣間見て、見聞を広げたようだ。

・家庭科被服授業では、裁縫作業の生徒活動を補助していただき大変助かっている。教科担任1人では全生徒の細かいフォローは不可能である。生徒も手伝ってもらいながら楽しそうに活動している。

・図書は、図書室の整備全般や装飾などをしていただき、図書室の環境維持に貢献していただいた。

<課 題>

陶芸の代表ボランティアの方が期間中連日朝から夜まで作業しており、ボランティアといえど負担が大きいと感じる。本校の特色の一つである教育活動であり、学校応援団の方々無くしては継続できないので大変感謝している。

5 コーディネーターより

今年度も陶芸・図書・家庭科・社会人講話の4種類全てを実施することができました。

新型コロナだけでなくインフルエンザの流行もあり、昨年同様感染症対策に留意して無事に終了できたことは、ボランティアの皆様のご協力あってのことです。改めてお礼を申し上げます。

社会人講話で講師をしていただいた方の勤務先が、職業体験の引き受け先になってくださるなど、良い方向に繋げることもできました。コーディネーターとして少しは学校に貢献できたように思います。陶芸では、不登校生徒や作陶を希望する教職員にも別途時間を設けて対応していただいております。作品展での展示準備にも積極的に関わっていただき、毎年のことですが本当に敬意と感謝の言葉しかありません。来年度も常に学校と連携を取り、応援団活動を進めていきたいと思っています。

6 学校長より

地域に根差した学校づくりを推進し、「生徒に・保護者に・地域に・教職員に魅力ある」教育環境を整えていくにあたっては、学校応援団の皆様との連携とそこへのご支援は必要不可欠なものです。

本年度の本校は「江戸川区教育課題実践推進校」として、「魅力ある学校づくり」をテーマにした取組を推進しました。学習活動における学校応援団の皆様方の生徒へのあたたかいご支援は、本事業にとどまらず生徒の学びを豊かにするとともに、生徒にとって理想の大人像（そして自分自身の将来像）を実感するものとなっていたと受け止めています。

学校応援団の皆様方の取組は授業時間にとどまらず、また事前・事後の取組も含め、ご家庭も交えてのご支援・ご協力をいただいていることを承知しております。このことに、生徒の喜んだ顔や自己肯定感の高まりを感じていただくことでしか、報いることができないのは常々恐縮するところです。

次年度以降も、地域の力を生かすとともに、地域に本校生徒の意欲や良さを知っていただく機会のひとつとしても、協働の体制をさらに推進してまいりたいと考えます。

西葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西中学校長 川崎 純一
 コーディネーター 塙 正彦

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	毎週火・木曜日	10人
行事支援	不定期	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は学校の教育活動がほぼコロナ禍前の状態に戻り、学校行事も以前とほぼ同じ内容で実施した。昨年度4年ぶりに再開したもちつき大会は今年度も実施でき、お手伝いをしていただいた。また運動会・学芸発表会・学校公開等の各行事の際にはボランティアの方々に受付や会場整理等に関して支援していただき、大変助かった。

また、今年度は図書ボランティアの方々の活動を拡大し、昨年度は木曜日のみだったが、火曜日も実施していただいた。書棚の掃除・整理整頓・本の修繕・新しく購入した本の受入れ・古くなった本の除籍などの図書館内の整備と、毎週火曜日・木曜日の生徒向けの放課後開館業務を精力的に行っていただいた。

<課 題>

花壇・栽培ボランティアが今年度も実施できなかった。来年度の実施に向けて準備をするとともに、新たな活動も模索していきたい。

5 コーディネーターより

今年度は学校行事をはじめとして、学校の教育活動がコロナ禍前の状態に戻り、生徒の活動する様子を再びたくさん見ることができ、うれしく思いました。

図書ボランティアの活動に加えて学校行事の支援活動もでき、昨年度に続いて実施したもちつき大会では昨年度よりも多くの生徒が参加し、とても和やかな時間を過ごすことができました。

ガーデニング部とタイアップして行う栽培ボランティア等の活動は、今年度も実施できなかったのも、来年度は実施できればと思います。

また、毎年図書ボランティアの活動が中心となっているので、来年度はもっと活動の場を広げられるようにしていきたいと思います。

6 学校長より

今年度は感染防止対策を継続しつつ、運動会等の学校行事をほとんどコロナ禍前と同様に実施しました。当日の受付、自転車置き場や会場整理等で学校応援団の方々に関わっていただき、学校としては大変心強く感じました。昨年度に続き、もちつき大会も実施することができ、生徒たちの喜ぶ表情をたくさん見ることができました。

また、今年度も図書館ボランティアの方々に活動をしていただきました。図書館の蔵書管理や整備に関して、整った状態になっているのは、ボランティアの方々の献身的な活動のおかげです。

学校の教育活動は、教職員以外の方の支援が必要な場面が多々あります。学校応援団の方々の支援を今後もよろしくお願いします。

東葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西中学校長 山田 尚孝
 コーディネーター 木下 真理子

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	62人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園管理	不定期	1人
美化活動（花壇の整備）	不定期	8人
英検、漢検の補助	年8回	38人
学校図書館整備	年3回	15人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・英語検定・漢字検定では私立高校で内申点の加点対象になることから、英検では平均 120 人以上、漢検は平均 50 人以上の生徒が受検しています。毎回、P T A 役員の方が P T A 会員に呼びかけ、多くの方に試験監督のボランティアをしていただいております。その結果、検定が滞ることなく実施することができ、毎回多くの合格者が出ています。
- ・学校農園については、協力者の方に畑の管理のすべてやっていただいております。今年度は小松菜等の野菜の種まき・栽培・収穫を主に部活動の生徒が担当しました。生徒のボランティアマインドの醸成に役立っています。
- ・学校図書館整備ボランティア活動は P T A 役員の方が P T A 会員に声を掛け実施しています。学校担当教員・区派遣の学校図書館支援員の方と連携し、主に蔵書整理・掲示物等の作成等を担当していただいております。工夫された掲示物等によって生徒が利用しやすい学校図書館になっています。
- ・学校内の美化活動として、地域の方々が花壇に花を植える活動を行事前等を実施していただいております。この美化活動のおかげで学校全体が華やかになってきました。

<課 題>

学校農園の運営・学校図書館整備で応援団と生徒の交流が実現しています。地域・保護者から信頼される学校を目指して、交流する機会を増やしていくこと。

5 コーディネーターより

検定・学校図書館整備のボランティアは P T A の方々の御協力で実施できています。学校農園の収穫等では生徒が主体的にボランティア活動をするなど、生徒のボランティアマインドの育成に貢献しています。今後も学校応援団の活動をさらに充実させていきます。

6 学校長より

学校応援団の方々には「学校農園管理」・「検定の運営補助」・「学校図書館整備」等、多大なる貢献をしていただいております。生徒の健全な成長には学校・家庭・地域が一体になって教育活動をサポートすることが重要です。学校応援団の方々の多岐にわたる活動のおかげで生徒は生き生きとした学校生活を送ることができています。今後も応援団の方と連携を深め、生徒・教員との交流も積極的に行っていこうと考えています。

清新第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一中学校長 松木 千明
 コーディネーター 坂崎 勉

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
検定支援	英語・漢字検定の試験監督 (各学期2回で計6回)	13人
特別支援学級書写手本作成・補助	不定期	2人



検定支援



書写

4 今年度の成果と課題

<成 果>

昨年度同様、学校のニーズに合わせた活動を進めていただきました。

- ・英語検定、漢字検定はそれぞれ学期に1回の運営・試験監督等をしていただきました。3年目となり運営がスムーズに行えるよう改善しながら行いました。
- ・年4回、特別支援学級の書写の講師をしていただいています。今年度は12月にカラー筆ペンを使用しニューイヤーカーの作成をし、1月は新年の書初めの指導をしていただきました。
- ・3学期に花壇の整備・植栽。

<課 題>

- ・検定支援の増員や入れ替わる際の、仕事の手順等の引き継ぎを確実に行う。
- ・現在行っている活動に次年度はさらに広がりを持たせ、活動の充実を図っていく。

5 コーディネーターより

今年度の清新第一中学校学校応援団では、生徒たちがより良い学びと成長の機会を得られるよう活動に取り組みました。具体的には英検や漢検などの検定試験の試験官や試験中の先生への取り次ぎサポートを各年3回実施いたしました。普段生徒が通い慣れ、実力を発揮しやすい一中にて開催できるという学習環境づくりに少しでも貢献できていれば嬉しく思います。また、F組の書写のお手伝いを行いました。

さらに、学校の環境整備活動として花壇の整備や花植えを実施しました。毎年3月に巣立つ卒業生と4月に入学する新入生の門出を祝福するなど、彩り豊かな学びの場をサポートしてまいりました。これらの活動を通じて子どもたちを支える意識を共有し、地域のつながりを今後も深め、生徒たちの成長を応援し続けてまいります。

6 学校長より

子どもが健全に成長を遂げていくためには、地域と一緒に子どもたちを育てるための連携が必要です。子どもたちのために何かをしてあげたいという思いから学校の教育活動を支援していただいている本校学校応援団は、真にこの連携の重要な構成要素の一つです。学校の教育環境整備や、教員の働き方改革を進めるうえでのお力添えなど、学校のニーズに合った活動を行っていただきました。生徒の様子や保護者・教職員との連携を図りながら学校を応援してほしいと考えております。

次年度はさらに連携を深め組織的に活動をしていきたいと思っています。一年間ありがとうございました。

清新第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第二中学校長 白石 亨
 コーディネーター 諸隈 智映子

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
一人一鉢運動	11月 植え替えの手伝い	4
マラソン大会支援	12月 生徒の見守り	10
生徒ボランティア支援	数回のボランティア活動の支援	10



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度は、地域の祭りや自治会の活動、地域一帯の運動会、区主催の行事等へのボランティア活動を充実させた。その都度、生徒を支援していただいた。生徒と地域の交流がさらに活発になり、良い雰囲気の中活動することができた。例年行っている下記の活動も活気が出てきている。

一人一鉢運動では、ビオラを植え替えるための鉢や土の準備や植え替えるときの指導をお願いした。学校応援団の方も、植栽後の水やりなどの名目で学校を訪問する機会が増え、良い関係性ができている。

マラソン大会では、生徒のランニングコースのところどころに立っていただき、生徒の安全の確保、見守り、また、声援も送っていただき大変ありがたかった。今後、防災訓練も予定しているので、ご協力をお願いしたい。

<課 題>

自治会長等と交流をしながら、学校応援団の充実を図っているが、人数がなかなか増加せず、同じメンバーでの活動になっている。もう少し地域全体へ周知し、短い時間でも応援していただける人材を確保していくことが課題である。

5 コーディネーターより

学校の教育活動の充実を図るため、PTA 関係の方々、地域の方々のご協力を得て本年度も充実した活動支援をすることができました。生徒の生き生きとした姿を見ると、こちらの活力にもなります。メンバーが固定されてきていますので、応援してくださる方を増やしていきたいと考えています。お時間に余裕のある方はぜひ参加してみてください。

6 学校長より

今年度も学校応援団の方々、地域の方々、保護者の方々にご支援をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで、今年度も予定された学校行事を無事に終えることができました。また、昨年度より生徒のボランティア活動が増加し、多くの生徒が地域で活躍してくれました。その活動を与え、支援してくださる地域の皆様に心から感謝申し上げます。

このような活動を含め、様々な面で学校と地域が一体となり、全体で生徒の健全育成に努めていければと思います。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

瑞江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江中学校長 藤田 敏
 コーディネーター 望月 一秀

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	学期に1回	3人
学校公開時の受付補助	年3回	12人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団の活動も今年で14年目になりました。現役の保護者が毎年引き継ぎながら活動していただいている図書ボランティアの方々は、図書室整備に尽力してくださっています。また、学校公開のときにはボランティアの方が受付の補助を担ってくださる等、学校のために働いてくださっています。

学校応援団のそれぞれの方々と学校との連携が深まり、開かれた学校づくり、生徒の健全育成の一助として大変助かっております。今後も生徒、教職員、PTA、地域の方々と一体となって、教育活動を推進していきたいと思っています。

<課 題>

- ① 学校応援団の人材確保が難しい。
- ② 年度当初に計画的に必要な予算案を立て、予算を有効に活用していくことの必要性を感じる。

5 コーディネーターより

今年度から瑞江中学校「学校応援団」代表（コーディネーター）を務めることになりました。我が子が在籍中はPTA会長として教育活動に関わり、今年度からは学校応援団として瑞江中の教育活動を陰ながら応援しています。子供が卒業すると中学校との関わりもなかなか取りづらくなってしまいがちですが、現役の保護者やPTA顧問会の皆様とともに、いろいろな形で学校を支えていければと思います。

来年度は更に学校応援団として大きな応援の広がりを作り上げていきたいと思っています。益々のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

6 学校長より

以前は学校の教員の時間も大きく使って進めていた部分を、学校応援団の方が替わって担ってくださっています。図書室の環境整備は、生徒の読書活動を推進していくうえで、大変助かりました。

今後、教員の働き方改革を一層推進してもなお教育環境を維持するためにも、より一層のご助力を期待しています。

これまで以上にボランティア色が濃くなっていく活動になりますが、応援団の皆様には引き続きよろしくお願いいたします。

瑞江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第二中学校長 滝澤 清豪
 コーディネーター 川原 晴久

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	14 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活 動 状 況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実 人 数)
学校図書ボランティア	隔月1回程度 月曜日に集まって活動	14 人
学校花壇ボランティア	日程の調整がつかず 令和6年度は休止	0 人

学校図書ボランティア



学校花壇ボランティア（今年度は休止）



4 今年度の成果と課題

＜成 果＞

- 1 本の修理、本の購入、本の廃棄が計画的にできていることや、蔵書管理システムの導入等により蔵書の管理がしやすくなっている。
- 2 ボランティア活動に参加する機会を得て、集団や社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成できた。
- 3 PTA や OB 会の方とのふれあいを通して、地域の一員であることを自覚することができた。
- 4 花壇の美しさが本校の特徴の一つになっている。それを生徒が自覚している。

＜課 題＞

- ・コロナ禍の終了後、様々な活動が再開されたことで、学校応援団と教員・生徒との日程調整が難しくなっている。
- ・教員の応援団との協働、意識向上を図ること。
- ・活動内容の整理と確認及び新たな取り組みを模索すること。
- ・学校応援団と生徒による協同作業の回数が限定的であること。

5 コーディネーターより

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTAOB会の皆さんや同窓生とことあるごとに相談している。コロナも落ち着いた今、学校との連携を一層密にしていきながら、教育支援に意欲のある方々を発掘して学校を応援していきたいと考えている。

開校当時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味（「静」ゾーンの校舎と「動」のゾーンのグラウンドとの線引きを意味する）と学校が開校以来、常に地域と共にあり、生徒・教職員・保護者・地域の皆さんの多くの努力・情熱に支えられて、今があることを伝えることができた。

学校応援団代表として、花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と一緒に取り組めることを喜び、コロナが落ち着いた今、学校応援団の活動がより広く、活発になるよう代表として活動していきたい。

川原 晴久

6 学校長より

図書ボランティアの活動では、図書館の整備をしていただき、昼休みの図書館開放には、たくさんの生徒が訪れていました。花壇ボランティアについては、コロナ禍が終わり、学校の活動・地域の活動ともに様々なものが再開される中、日程の調整が難航し休止せざるをえなかったことは誠に残念でした。

本校の特徴のひとつとして「校内の花壇に咲いているたくさんの花と、学校の敷地を囲んでいる草花」があげられます。来校者や近隣の方からもお褒めの言葉をいただいています。応援団の皆様、教職員、生徒が一体となって花壇の手入れを行っている姿を一日も早く復活させられるよう願っています。令和7年度は活動を再開させて、地域とともに生徒たちを育てる体制が一層強固になっていきますよう瑞江二中への応援をお願いいたします。

滝澤 清豪

瑞江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第三中学校長 山口 孝
 コーディネーター 澤井 茂

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	2人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	週4回	1～2
花いっぱいボランティア	不定期	2



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度も昨年度同様、図書ボランティアに来ていただきました。季節ごとの飾りつけや子供たちが入りやすく、本に親しみやすい環境を作ってくださいました。お子さんを連れてきてくださり、ご家族でボランティアをしてくださり、とてもアットホームな応援団となりました。

また、花いっぱい運動の園芸ボランティアと本校野球部が協力して、避難所開設のために必要な装置の使い方を学んだり、備蓄倉庫にあるものを確認したり、実際に避難所を開設する場面を想定しながら、活動を行いました。花いっぱい活動では、校内の花壇の整備や作物づくり、そして瑞江駅の花壇への花植えを行いました。

<課 題>

コロナが5類になったことで、様々な活動の制限が緩和されたことによりできることは増えたと感じています。しかし、新しいことを急に始める、ということは難しく、例年通りの形になりました。来年度は地域の方に呼びかけて、花いっぱい運動や非常時に役立つ野菜作りなどを教えていただきながら生徒と一緒に活動していただけたら、と考えています。

5 コーディネーターより

図書ボランティアに来てくださる OB・OG の皆様ありがとうございます。新しい校舎になって3年目ですが、図書室を日々、綺麗に見やすく飾りつけをしてくださっています。また瑞江駅の花いっぱい運動では、地域の方々の目を楽しませることができているのではないかと思います。これからも、学校応援団として学校・地域を盛り上げていきたいと思っています。

6 学校長より

図書ボランティアの方は、ほぼ毎日来てくださり、図書室をより使いやすく、また季節に応じて変化のある飾りつけをしていただき、心より感謝申し上げます。本校生徒も、ボランティア熱が上昇中です。今年度は、地域のおまつりや自転車盗難ゼロ運動をはじめ、避難所開設のための準備として生徒たちが実際に「かまどベンチ」を組み立てたり、井戸水を出してみたり、備蓄倉庫や簡易トイレを見学したり、アルファ化米を食べてみたりと、いざという時にボランティアとして地域の方のお役に立てるよう、自主的に活動しています。また現 PTA 会長様と本校生徒会が今後のボランティア活動について話し合うなど、来年度に向けて具体的に動き出しています。地域の方々の力をお借りしながら、学校応援団をより盛り上げていければと考えております。



春江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

春江中学校長 横枕 耕史

コーディネーター 原田 仁

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	19人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災教室の手伝い	11月16日(土)	9人
図書ボランティア	月、金曜日	16人
運動会の警備・掃除	行事ごと	11人
福祉体験の手伝い	行事ごと	9人

【11月16日(土) 防災教室の様子】



【12月13日(金) 福祉体験の様子】



4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団の活動は学校運営に大きな成果をもたらしてくれています。防災教室では応援団がエスコートすることにより、生徒が実践的かつ参加型の防災教室が実践できている。地域の防災経験者が生徒と直接対話する「つながり」をもつことで具体的な避難方法や災害時の心構えを指導でき防災意識の啓発が図れた。図書室では、図書の貸し出し・返却作業が円滑化され生徒の図書館利用の円滑化に加え、気軽に図書室を利用できる雰囲気醸成された。運動会、福祉体験でも保護者対応、駐輪場管理、障害者との交流の支援など幅広く対応した。学校応援団の活動は学校と地域社会の信頼関係を深め、生徒一人ひとりの成長を支える基盤となった。

<課 題>

学校応援団の活動への参加者数の不足がある。特に防災教室や福祉体験等、事前準備や打合せが必要な活動では、参加者の負担も増加し今後の活動に課題が残る。現状では学生ボランティアがいらないことから多様な人材の協力を得る必要がある。また、活動計画や役割分担を明確にし、前年度の改善点をいかす仕組みづくりが必要である。学校応援団全体の活動の効率化を図りながら環境の整備を進めていく。

5 コーディネーターより

学校応援団の日頃からの活動に感謝申し上げます。今年度も防災教室、運動会、福祉体験、図書館カウンターと多岐に渡って活動へのご協力をいただきました。運動会でも保護者と地域が一体となった取組により、安全かつ円滑な運営が実現できました。図書カウンターでも応援団の温かな支援や対応が生徒の読書活動を促進し、多くの本と触れ合う機会をもたらしてくれています。今後の応援団の意見を参考にして学校と地域が共に手を携え、生徒の成長を支える活動を支援していきます。引き続きのご理解、御協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

今年度も学校応援団の活動は本校の教育活動へ多大な貢献を果たしていただきました。特に防災教室や福祉体験では、生徒と地域が直接つながることで、生徒一人ひとりが実践的な知識を得ることができた貴重な機会をなりました。この学校応援団が引き続き持続可能な活動となるために幅広い品財の参加を呼び掛けていきたいと思えます。学校と地域社会が力を合わせ、生徒の豊かな学びと成長を支える学校づくりを目指していきます。

鹿本中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 加納 学
 コーディネーター 加藤 正人

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充教室	長期休業中（夏季・冬季）	0人
特別支援学級補助	不定期	0人
図書館整備	不定期	0人
手話通訳	難聴学級「小中交流会」（8月）	2人
餅つき会運営	延期	0人
あいさつ運動	学期1回、一週間 学校公開	PTA活動
心和む 花を！	学期1回	2人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

鹿本中学校の周辺地域は、学校を温かく見守り、応援する伝統的な協力体制があります。その伝統は受け継がれ、現在でも保護者、PTAのOB・OG等の皆様や卒業生の皆様から温かなご支援・ご協力をいただいております。

令和7年度は、美化委員会を中心に、4年前から始めた「心和む 花を！」プロジェクトを推進し、千葉街道に面した敷地内に花を植え、咲かせることができました。美化委員会の生徒達が手入れを丁寧に行ったため、長く咲き続けました。生徒も手ごたえを感じていましたが、総合体育館を利用する方々から「きれい」「歩く楽しみがある」などお褒めの言葉を頂いたことが、何よりもの喜びとなりました。これを契機にさらに地域に根差した学校を目指していきます。

<課 題>

ボランティアの登録人数やPTA以外の地域協力者の確保が難しい状況にあります。そのため、平日の放課後に学習教室を手伝ってくれる人材を確保し、学校司書と連携し、読書活動や学習をより一層、活発にしていければと考えています。また、今後、応援団と生徒が協力して校内の整備・美化活動を活発にしていきます。5年前にPTAのOB・OG会が再編成されました。今後は、十分に連携して活動を進めることが課題です。

5 コーディネーターより

この一年間、鹿本中学校の取り組みにご協力とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。応援団は「あくまでボランティア」とは言え、自分の時間・生活を割いて学校に出向いて下さる方々の善意に甘え続けることは心苦しく感じます。

今年度は、「心和む 花を！」プロジェクトも4年目に入り、徐々に地域から認知され、「次は何の花?」「手入れが大変でしょう」などという声を聞きます。鹿本中学校が地域のために役立ち、評価されていることは、何よりも嬉しいことです。地域や卒業生などの協力を得られるよう、さらに努力します。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様・卒業生の方々・地域の方々・そして、PTAの方々など多くの皆様からの応援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

鹿本中学校には、通常の学級、特別支援学級、難聴通級学級、特別支援教室があります。それぞれ、特色ある教育活動に取り組みながら、お互いを認め合い、励ましあい、高めあって中学校生活を送っています。学校応援団の皆様には、この特色ある教育活動にご支援を戴いております。そのため、教員では補いきれない分野での活動においても十分に組み立てていると感謝しております。今後とも生徒のよりよい自己実現のため、ご指導、ご協力を頂きますよう、よろしくお願い致します。

鹿骨中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立鹿骨中学校長 大谷 雅也
コーディネーター 川合 里美

2 ボランティア数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	生徒ボランティア	206人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	生徒ボランティア
花壇整備	年4回	86人
図書館整備	年4回	40人
敬老の日のお手紙	年1回	20人
ポプラまつり	年1回	60人



今年度の成果と課題

<成 果>

○花いっぱい運動

学校を花でいっぱいにして「花の街 鹿骨」の伝統を守る。生徒たちが花壇のレイアウトを行い、正門花壇に苗を植えました。花壇を見て元気になった、と地域の方から感想を得ました。

○敬老の日のお手紙

敬老の日には有志の生徒がメッセージカードを作成し、高齢者の集いで披露しました。心温まるメッセージが高齢者に喜ばれ、お礼状も届きました。

○図書館でのボランティア

図書館支援員と協力し、図書の整備や廃棄本の整理をした。

○ポプラ祭への参加

生徒が企画するポプラ祭の運営に協力した。大盛況であった。

<課 題>

学校応援団の組織の継続と、学校と応援団の間の情報の共有方法について体制を確立したい。

5 コーディネーターより

生徒が自主的に地域や学校のために活動する姿に、感動した。学校や社会がより良くなるように、日々の学校生活を大切にしながらボランティア活動を行う姿が、とても素晴らしいと感じている。今年度も花いっぱい運動で、玄関前の花壇の整備やプランターへの球根植え、を行うことができました。昨年度から再開したポプラ祭の協力ができ、今後も鹿骨中の教育活動の支援をしたい。

6 学校長より

今年度も学校応援団の活動に、コーディネーターの川合様や学校評議員の方々にご支援いただきました。今年度の活動の継続と活動の充実を図りたいと考えています。教育活動には、学校応援団の支援が不可欠であり、引き続きのご支援をお願いしたい。

篠崎中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎中学校長 紅林 兼一
 コーディネーター 中川 博喜

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
運動会パトロール	年1回	10人
進学に向けた面接練習	年1回	30人
篠中フェスタ	10月	20人
花壇整備	2月下旬に実施予定	30人



進学に向けた面接練習



花壇整備

4 今年度の成果と課題

<成 果>

【運動会パトロール】

- ・学校応援団の協力で校庭、駐輪場等の見回りを行っていただいた。多くの方が来校されることが予想されたので、多数のパトロール人員が必要となったが、学校応援団の皆様の協力によって、滞りなく会を進行することができた。
- ・校舎内駐輪場に自転車が入りきらず、校舎外の道路や近隣公園に自転車が駐輪されることも予想されたため、学校応援団の方に協力を依頼し、都営公園を借り上げることで、臨時駐輪場を開設することができた。
- ・観戦者の熱中症対策として、一部の冷房施設のある部屋から運動会を観戦できるように開放し、校舎内のパトロールを学校応援団の方に担っていただくことができた。

【面接練習】

- ・3年生の進学に向けた面接練習の面接官をPTA OB会を中心としたメンバーに行っていただいた。普段指導に当たっている校内の教員ではない地域の方に面接官を行っていただくことで、生徒たちは緊張感をもって練習に取り組むことができた。

【篠中フェスタ】

- ・篠崎中学校関係者だけでなく、近隣小学校PTAやOB会、おやじの会等が、出店や出し物など地域一丸となって協力していただくことができた。

【花壇整備】

- ・卒業式に向けて正面玄関の花壇整備を行う。今年度は2月下旬に実施予定である。

<課 題>

- ・学校応援団の人材の確保や平日の日程調整が難しい。
- ・教職員との連携を一層充実していくことが必要である。

5 コーディネーターより

- ・コロナ禍による行事の中止等がなくなり、活発な教育活動が再開してきました。今後も学校応援団として、地域と学校のかけ橋となれるよう様々な協力を行っていきたいです。
- ・地域性の温かさや篠崎中学校が地域から愛されていることを大切にしていきたいと思っています。

6 学校長より

- ・学校・保護者・地域の願いが、「誇れる母校」を目指し、地域の一員として自覚をもてるように育てています。今後もネットワークをさらに広げ、強めることにより生徒のために充実を図っていききたいと思います。
- ・本校は、今年度、学校評議員会を学校運営協議会へ移行し、江戸川区のコミュニティ・スクールモデル校として、江戸川区教育委員会の協力を得ながら、地域住民等と学校が今まで以上に力を合わせて学校の運営に取り組んできました。来年度以降についても学校応援団の皆様には、学校と地域をつなぐ重要な役割を担っていただくこととなるかと思っています。今後とも御協力のほどよろしくお願い致します。

篠崎第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二中学校長 蓮沼 祥之
 コーディネーター 平田 桂

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
入学式支援	4月	10人
運動会・文化祭実施支援	6月・10月	20人
学校公開受付支援	年間4回	20人
地域清掃支援	年間2回	5人
篠二プラザ開催支援	11月	10人
環境整備	不定期	8人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

【活動】

- ・ 6月実施の運動会、10月実施の文化祭での、自転車整理や受付業務の手伝い及び保護者への応援・鑑賞マナーの呼びかけ。
- ・ 11月に実施したPTA主催の「篠二プラザ」における、模擬店の運営協力。
- ・ PTA主催の「ボランティア清掃」へのお手伝い。
- ・ 年間4回の学校公開の受付補助。
- ・ 不定期で行った校内環境整備（壁のペンキ塗り替えなど）。

<課 題>

- ・ ボランティアの方の大半が、本校PTAのOB・OGの方がほとんどであり、年々高齢化が進んでいる。各々スケジュールを調整することが難しく、計画的に活動を行うことが極めて困難である。
- ・ 学校応援団の活動や計画そのものが、主に学校発信となってしまう。

5 コーディネーターより

応援団の皆さんには、公私ともに大変ご多用の中、それぞれが都合のつく時間で活動をしていただいております。昨年度は世界的に蔓延したコロナが終息を迎え、教育活動もコロナ禍以前と同等の活動とはいかないまでも、様々な活動や体験を積極的に行うことができました。これは大変喜ばしいことであり、生徒にとっても貴重な体験となったことでしょう。

しかし、課題であったメンバーの若返りについては、募集は行っているものの、中々新たなメンバーの加入までには至っていないのが現実です。引き続き学校と協議のうえ、メンバーを募るとともに、来年度以降も皆さんと一緒に篠崎二中を盛り上げていきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いします。

6 学校長より

コロナが終息を迎え、活動が停滞していた学校応援団の取組が徐々にではありますが、再開し活性化しつつあることに感謝しています。

とは言えコロナ前の教育活動の充実にはほど遠く、日々活動の見直しと改革を推進していく必要があると感じています。

今後も、学校応援団の皆様のご協力やご支援を一層賜りながら、本校生徒の成長のため連携を深めて参りたいと考えています。

小岩第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第一中学校長 青山 昭広
コーディネーター 山辺 登

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	約 20 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校花いっぱい運動	学期末・不定期（活動は毎日）プランター植え付け学校受付周辺の美化	延べ 20 人
一中改築応援運動	不定期・校舎改築に向けて会合他	約 10 人
あいさつ運動	生徒の健全育成のためのあいさつ運動（朝・行事前・学期はじめ・末等毎朝交代制）	延べ 30 人
三校一園合同音楽会応援	楽器搬出入、運搬作業、楽器運搬講習 10 月下旬・11 月	延べ 15 人
地域ふれあい面接	2・3 年生など職場体験や入試、社会マナーの面接練習時の指導（10 月～11 月）	延べ 15 人
キャリア教育・職業講話等	身近な方の職業について聞く会 12 月	12 人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校では PTA 活動の中に学校応援団活動を位置づけしています。令和 6 年度は校舎の建て替え中という事もあり、様々なことを試行錯誤しました。あいさつ運動では毎日生徒が行っている活動に対し、当番として入るのではなく、行事で来校した機会に、立ち寄った時に…と負担にならないように行っています。工事の車がかなり往来するので、登下校中が心配だという声が上がっていましたが、毎朝見守りがてら行うという利点もあり安心できました。正面玄関のプランターの花いっぱい運動は昨年以上に花の種類を増やし、実のなる低木を植えるなどの工夫した結果、生徒も先生も、来客の方々にも好評でした。本校の恒例行事として応援団の方々、評議員の方々による「地域ふれあい面接」では、3 週間の中でそれぞれ希望を募り、6 日間延べ 20 人で生徒たちの面接の指導に当たっていただきました。普段の教員との練習の何倍も緊張し、さらに、20 分間めいっぱいご指導いただき、その後の職場体験や受験への良い意識向上につながりました。今年は 1 年生にも何かできないか…ということで、2 年生の職場体験の終了を待ち、12 月にキャリア教育として身近な方に仕事の事について聞いてみよう～職業講話～を応援団のお力を借りて行いました。応援団の 8 名の方に 8 か所に分かれて講話をお願いし、生徒たちと座談会をお願いしたところ、普段消極的な生徒でもたくさん質問し、次の年の職業体験に向けて期待を抱く行事になりました。来年もぜひ、第 2 弾をやりたいと応援団の方々からも好評で地元応援団のすばらしさを感じました。

<課 題>

応援団の方々が世代交代で入れ替わっていくのはとてもいいことではあるが、なかなか人数が増えていないのが現状である。特に、ふれあい面接は生徒にとっても好評であるが、授業が終わるころの時間帯は応援団の方々も時間的に忙しい時間帯でもある。その部分をもっと計画から見直し、応援団の方や紹介していただいたボランティアの方も協力していただきやすい工夫が必要である。令和 7 年度は地域行事「三校一園演奏会」の運営は本校が幹事校として行われる。地域小学校との応援団の方々と協力し、令和 6 年度よりも小中で連携できるようボランティア等の協力について呼びかけを行うことが必要である。

5 コーディネーターより

小岩一中の応援団の活動は保護者・PTA 役員の方々・OB や同窓会朝会などの地域の皆様といった本校にかかわりのある方々にご参加いただき、支えていただいております。今年は新しい行事にも参加し、突然のことではありましたが、充実した活動ができました。無理のない範囲で、長く継続できるように生徒たちが成長できる環境を作り、活動をサポートしていきます。新校舎に移動した後もスムーズに活動ができるよう、支えていきたいと思います。

6 学校長より

本校では「みんなが幸せになれる学校」を目指しています。実現のためには学校・家庭・地域が力を合わせていかなくてはできません。本年度も保護者・PTA 役員・PTA 役員 OB・同窓会や町会等地域の皆様、多数の方々の応援をいただきました。心より御礼申し上げます。今年度は新たに「地域ふれあい面接」に加え、1 年生対象の「職業講話」を実施いたしました。皆様には生徒たちのために快く講師を引き受けていただきありがとうございました。さらに学校、家庭、地域が協力した行事が増えていくことを願っています。今後も生徒の健やかな成長へのお力添えをよろしくお願いいたします。

小岩第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第二中学校長 高萩 広志
 コーディネーター 尾崎 友信

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	22人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花の栽培・高齢者施設への贈呈	11月 花の栽培 2月 高齢者施設への寄贈	1人
岩二祭	10月6日	19人
土曜受験講座	10月～2月	2人

岩二祭



花の栽培



4 今年度の成果と課題

＜成 果＞

・前校長先生がご自宅で栽培したお花を学校に届けてくださり、バス通りに面した花壇に植えました。ビオラ・マリーゴールド・パンジー等、季節によって色鮮やかな花が咲き、地域の方々や通りがかりの方々にも喜ばれる花壇になりました。また、栽培したお花を高齢者施設へ届ける活動を昨年度に引き続き行いました。いただいたお花の苗を校内で成長させ、2月に生徒会生徒が高齢者施設にお届けし、施設の利用者の方々にも喜んでいただけたようです。参加した生徒も喜んでおり、とてもやりがいを感じたようです。

・「岩二祭」を本校校庭で実施し、模擬店やゲーム等を用意してくださりました。また、地域の有志の方々が太鼓の演奏を披露してくださいました。多くの児童や生徒が来校し、子どもたちにとっても楽しいイベントになりました。ボランティアとして参加した本校生徒も販売のお手伝いなど大活躍でした。

・希望した3年生を対象とした土曜受験講座を実施しました。2学期を中心とした火曜日（数学）・木曜日（英語）の2教科の授業に計35名の生徒が参加しました。それぞれ教科の講師の先生には熱心に授業をしてもらいました。生徒も毎回一生懸命に学習に取り組んでいました。

＜課 題＞

花壇の整備についてはもっと多くのボランティアによって担ってもらえればと思います。来年度は本校生徒や地域の方にも広げていければと思います。

5 コーディネーターより

今年度は予定通りに多くの活動を実施することができました。今後もさらにボランティアの輪を広げ、学校と地域の関わりが活性化されることを期待しています。来年度も小岩二中の生徒のみなさんとも楽しく活動をしていきたいです。

6 学校長より

今年度はお陰様で予定通りに活動を実施することができました。ボランティアの輪をさらに広げ、保護者・地域の皆様方との連携を深めてまいりたいと思います。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

小岩第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第三中学校長 山田 人也
 コーディネーター 渡邊 哲也

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	80人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
廃品回収	年4回	80人
菜園管理・指導	年10回	1人
面接指導	年1回	11人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

生物環境部の活動は、学校応援団の方々の技術指導により、屋上菜園での野菜づくりで多くの収穫を得られ、生徒は達成感を感じることができました。

また、受験期の3年生を対象とした面接練習の面接官を地域の方々をお願いしています。これらは「心の教育」を重視している本校の大きな特徴の一つとなりました。団長（コーデ

ィネーター)を中心に学校の環境整備にも計画的に取り組むことができました。本年度は屋上緑地の整備作業、菜園で行った野菜作り、花の栽培などを通し植物育成の理解を深める、収穫した作物を味わうなど、生徒たちの生活を営む基礎的な力につながりました。

＜課 題＞

サポーターとしての大人の募集や維持費の捻出が課題です。令和7年度もさらなる活性化を図りたい所存です。

5 コーディネーターより

私が学校応援団として活動するきっかけは、屋上緑化のお手伝いでした。活動を進めていくうちに生物環境部のお手伝いをするようになりました。

生徒達と過ごす時間はとても楽しく、最初は土いじりに消極的だった生徒も自然と触れ合っているうちに、楽しく積極的に活動に参加するようになっていく姿を見ると本当に嬉しくなります。収穫を喜び、料理を作って味わい楽しむなど、楽しみがたくさんある反面、夏の暑い中での水やり・草取り・芝刈りなど、大変なこともたくさんあります。

微力ではありますがこうした活動のお手伝いをするにより、生徒たちをより身近に感じながら学校の環境を整えることへ繋がれば、これほど嬉しいことはありません。

学校応援団では、自然との共存する活動の他に部活動や学校行事の取り組みのお手伝いもしています。少しでも学校の力になりたいと思っている地域の人々と、学校教育をより充実させたいと考えている先生方の思いがつながり結成された学校応援団、このような暖かい気持ちのつながりが充実した学校環境をつくり、その気持ちが子供達へ伝わっていくことを願いつつ、これからも活動していきたいと思っています。

6 学校長より

本校の学校応援団の取り組みは、今年度で14年目を迎えております。取り組み内容にありますように、様々な活動を展開しており、学校の教育環境の充実や生徒の心の充実、という目的に叶ったプロジェクトになっています。本校では、校舎屋上での野菜作りや植物栽培・学校内外の環境整備・進路指導の一環である地域の方を面接官とした面接練習が主な活動となっていますが、応援団の方々には生徒の活動を支える大きな力になっていただいています。また、部活動や学校行事にも応援団の方のお力添えをいただいております。何よりも、生徒たちが屋上の野菜や植物、生物を大切に育てたり、見守ったりしながら、自分たち自身の心を育ててくれていることが大きな成果だと考えています。これからも、保護者や地域の方々のご協力ご支援を得ながら有意義な学校応援団の活動を続けていきたいと考えています。

小岩第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立小岩第四中学校長
コーディネーター

鈴木 訓文
若松 喜美子

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	8 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花の植栽（水やり）	年2回（不定期）	3 人
ふれあい面接	年1回	5 人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 学校行事のタイミングに合わせて、季節の花を植えていただきました。また、休日や長期休業中には、水やりもしていただきます。校門付近の花壇で咲いている花が、学校を訪れたお客様の目に留まり、おもてなしの一助になることを願っています。
- 進路学習の一環として、地域の方に面接官を依頼し、面接指導「ふれあい面接」を実施しています。対象は、第3学年生徒のうち、面接試験のある生徒や面接練習を希望する生徒です。生徒は学校外の方にご指導していただくとより緊張するようで、真剣に取り組んでいました。

<課 題>

- コロナ禍以前のように、学校応援団の方と生徒が協力して行う活動を復活させられませんでした。放課後は部活動や放課後補習教室などの予定があるため、来年度は年度当初に日程を調整し、地域の方と生徒が無理なく活動できる計画を練りたいと思います。
- 学校応援団について、教職員・生徒・保護者・地域の方から認知度が低いように感じます。ホームページや学校だよりに掲載し、まずは知っていただき、興味を持っていただき、協力（応援）していただけるような流れを作りたいです。
- 教員の異動により学校の担当者が変わっても、活動を継続できるような組織を目指します。

5 コーディネーターより

長い間、学校応援団として花の植栽や水やりに携わってきました。玄関前にあるスロープの場所がかつて花壇で、そこで菊を育て文化祭でお披露目していたのが懐かしいです。コロナ禍以降、花の植栽などは少人数で行っています。子どもが卒業してから大分経ちますが、気が置けない仲間と楽しく活動しているので、先生方が変わられても続けていくつもりです。

ふれあい面接は、中学生と直接お話することができる貴重な機会とお聞きしています。

今後も、地域に根差した「学校応援団」を目指して、学校のニーズに合わせ幅広い支援の輪を広げていきたいと考えています。

6 学校長より

コーディネーターをはじめ学校応援団の関係者の皆様には、ご多用にも関わらず、今年度も花の植樹やふれあい面接など、学校のためにご尽力いただき、大変感謝しております。

本校では、生徒の健全育成の場として、地域の皆様と生徒が触れ合う機会を大切にしています。

このような活動をさらに推進していくためには、学校応援団の皆様のご協力が不可欠です。引き続き、来年度以降も本校の応援をよろしくお願い致します。

小岩第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第五中学校長 前本 大智
 コーディネーター 前場 利彦

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	17人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園	通年	8人
高校合同相談フェスタ	7月13日(土)	8人
PTA 来てきてバザー	10月26日(土)※文化祭に併せて開催	6人
花いっぱい活動	3月(予定)	未定

【栽培体験の一例】学校農園で野菜（ネギ）を収穫→給食で喫食



豊作でした



給食室で調理



あすか汁でおいしく頂きました

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ① 感染症による制限のためしばらく開催できずにいた「PTA来てきてバザー」が、小規模ながら文化祭と併せて開催することができました。
- ② 「学校農園」事業においては、例年と同様農園部の皆様の厚いお力添えにより、特別支援学級等の授業において子どもたちに栽培→収穫の体験をさせてあげることができました。7月に収穫したねぎは「あすか汁」として7月4日（木）の二十四節季の献立となり、今年度豊作であった冬瓜は、約3か月のあいだ数度にわたって給食の食材となりました。
- ③ 高校合同相談フェスタについては、コロナ禍を越え3年連続で元の規模に少しずつ戻しながら開催しています。今年度は登録ボランティア以外にも総勢50人近くの方々に関わっていただきました。この活動は、生徒の今後のビジョンを開拓できる良い機会となっており、子どもたちも保護者の皆様も意欲的にブースを回り相談している様子が見られました。

<課 題>

地域の人的資源を有効に活用できている一方、一定のメンバーに負担が偏ることなく、持続的な活動を行えるような人材確保が、昨年度に引き続き今後の課題です。

5 コーディネーターより

過去3年間ほど続いた感染症による制限も緩和され、ようやく従来に近い活動を再開できるようになりました。学校応援団としましては実際に生徒・教職員の皆さんと対面して活動することに意義があると考えていますので、地域としてのボランティア活動が生徒の皆さんの健全育成をどのように応援できるかをあらためて意識しつつ、今後さらに学校のお役に立てるよう、積極的に取り組んで参りたいと思います。

6 学校長より

応援団の皆様にはいつもお世話になっております。昨今の世情において、学校に皆様の貴重なお力をいただいているこの活動は、大いなる成長期である子どもたちにとって重要な機会であり大変ありがたいことであると思っております。

応援団の基本である「学校」「家庭」「地域」が共育・協働するというモットーは地域に根差す学校の今後においてとても重要な取り組みであると考えます。日々のご尽力に感謝申し上げますとともに、引き続き応援団の皆様のお力添えをいただけますよう、お願い申し上げます次第です。

上一色中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 飯田 剛
 コーディネーター 菅原 一之

2 ボランティア登録数（令和7年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	7人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備、図書館管理	不定期	4人
花いっぱい運動	年3回	3人

花いっぱい運動



学校図書館ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校では「図書ボランティア」による放課後の学校図書館開館を実施しています。職員会議や研修会がある日に開館を行い、読書・調べ学習の推進となるよう努めました。学校図書館のポップや飾りつけなどの装飾に力を入れていただきました。花いっぱい運動では、季節を感じさせる花々を花壇やプランターいっぱいに咲かせ、花あふれる学校を目指しました。学校の教職員とボランティアが協力してきれいな花を咲かせることができました。

<課 題>

本校では、近年、学校応援団に関わる人材の確保が課題としてあげられます。今年度は、学校図書館ボランティアの方々が日数を多くしていただき、学校図書館に力を入れていきました。しかし、学校応援団の人数が少なく、計画的に実施できなかったことが課題で、保護者にも積極的に参加していただきました。生徒が来室しやすい学校図書館をということで工夫いただいています。

今後も募集活動をしていきます。現行の花いっぱい運動に参加してくださる地域の方や学校図書館ボランティアに参加してくださる地域の皆様の力をお借りしながら応援団の活動の幅を広げるとともに、活動を活性化していきたいと思ひます。

5 コーディネーターより

上一色中学校の学校応援団の活動も、多くの方々にご協力をいただき定着している。今まで、「花いっぱい運動」や「図書館整備ボランティア」により地域と学校が一体となって生徒を見守ることができている。そのことで、地域でボランティアをする生徒や通りに挨拶をしてくれる生徒を見かけ、「地域とともに歩む上一色中」を実感することができている。このような温かい関係をこれからも益々大事にして、地域の子供の成長をみんなで見守り続けていきたい。

6 学校長より

本校の学校応援団は学校図書館のサポートと花いっぱい運動にご協力いただいております。花いっぱい運動もなかなか集まる機会に恵まれず、まだまだ工夫が必要だと思ひています。学生ボランティアも含めて学校応援団の募集もさらに進めていく予定です。来年度も保護者や地域の皆様の力をお借りしながら、学校応援団の活動の広がりを願いつつ、学校運営に尽力してまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。